

はじめに

アイソトープ総合研究施設長 柴 和弘

今回は、学際科学実験センター長に代わりに書かせて頂くことになりました。それは、昨年の東日本大震災が原因で起こった福島第一原発事故について、学際科学実験センター、特に放射能・放射線と関係が深いアイソトープ総合研究施設やアイソトープ理工系研究施設がどのように関わってきたか、お知らせするためだと考えております。福島第一原発事故後、最初の協力として、NaIシンチレーション、GM、電離箱の各サーベイメータ1台ずつとポケット線量計18台を供与しました。3月末には、福島県産や茨城県産の野菜類が送られてきて、汚染野菜の放射能除去法の検討を行いました。これは、日本放射線安全管理学会のアドホック委員会の研究班の班長として、出荷制限野菜の低減化や家庭での安全・安心の確保を目的として行ったものです。次に、6月～8月にかけて、アイソトープ理工系研究施設が中心となって、文部科学省の依頼で行った汚染地図の作成のための土壌の放射能測定を行いました。これには全国の大学や研究機関が関わり、福島原発100km圏内の詳細な土壌汚染マップが完成しました。また、石川県の住民の方の放射能汚染やそれによる健康影響に対する不安をケアするための活動も積極的に行ってきました。昨年8月には、金沢大学放射性同位元素委員会との共催で、金沢大学市民公開講座「市民のための放射能・放射線の話」を行い、福島第一原発事故の概要並びに事故による健康影響に関する講演を行いました。それから、金沢市、小松市、七尾市、野々市市などの住民の方の漠然とした不安を取り除くために数多くの市民講演も行ってきました。今後も、福島の復興に少しでもお役に立てられるように、頑張っていきたいと考えております。

さて、本センター全体の昨年度の動きとしては、学内の研究機器の共同利用促進や有効再利用並びに効率的な再配置等を目的とした設備共同利用推進室（3年間の期限付き特別経費）が、学際科学実験センターに設置されました。現在、特任教授1名、技術補佐員3名で運営しています。特任教授には、退職前にアイソトープ理工系研究施設長もされていた中西 孝先生をお迎えしました。今後、学際科学実験センターの各研究施設と連携し、本学の研究推進に役立つように取り組んでいきたい存じます。また、本センターでは宝町地区の3施設の増改築を含めた物理的かつ有機的な連携を高めると共に、角間地区における機器分析研究施設の建屋の設置に力を入れ、本学の様々な分野の研究の発展に貢献していきたいと考えております。今後とも、皆様方のご指導・ご支援をお願い致します。